

# 司令官の緊急対応プログラム

司令官の緊急対応プログラム(CERP)は、イラク戦争とアフガニスタン戦争中に軍司令官が再建と再建を行うために使用するお金でした。<sup>[1]</sup>

## プログラム

当初はイラク侵攻中に押収されたお金でしたが、後に米国連邦政府が割り当てた資金も使用されました。軍は、公道、学校、診療所、人道援助など、イラク人またはアフガニスタンの人々の利益のためにお金を使わなければなりません。CERPの資金は国防総省から来ました。現場での資金の使用は、旅団レベルの軍司令官によって承認することができます。<sup>[2]</sup>そのような資金の使用を管理する規則は、法律における議会の制限に基づいており、特定の事業のニーズに合わせて調整されます。米軍にとって、CERPによるお金の使用は効果的な対反乱兵器と見なされていました。<sup>[3]</sup>

2011年1月までに、米軍はCERPを使用して人々を支援するために、6年間でアフガニスタンでの16,000のプロジェクトに20億ドルを費やしました。<sup>[4]</sup>プロジェクトの規模は、学校の改修、井戸の建設から、はるかに大規模な公共事業やインフラストラクチャの再建まで多岐にわたりました。<sup>[5]</sup>

## 脚注

- ロンドン、エルネスト。「不毛のイラクのウォーターパークは緊急プログラムの欠陥を証明している」 (<https://www.newspapers.com/image/423299943/>)、アトランタジャーナル-憲法、第63巻、第4号、2011年1月4日、1AおよびA7ページ。(サブスクリプションが必要です)
- コップ、ハリー(2011)。キャリア外交、第2版。ワシントンDC: ジョージタウン大学出版局。99ページ。ISBN978-1-58901-740-5。
- ヘドペス、ダナとコーエン、サラ。「イラクでは、お金が最強の武器かもしれない」 (<http://www.newspapers.com/image/348378353/>)、ポストスター、グレンズフォールズ、ニューヨーク、104年目、番号262、2008年8月12日、A4ページ。(サブスクリプションが必要です)
- 「アフガニスタンの支配下で崩壊しているアイテムに20億ドルが費やされた」 (<https://www.newspapers.com/image/423299943/>)、アトランタジャーナル-憲法、第63巻、第4号、2011年1月4日、1AおよびA7ページ。(サブスクリプションが必要です)
- 「アフガニスタンのナンガルハール州で高校が再開 (<https://www.newspapers.com/image/270053780/>)」、ゴスポートセクション(第70巻、第14号)ペンサコーラニュースジャーナル、フロリダ州ペンサコーラ、2006年4月7日、10ページ。(サブスクリプションが必要です)

Retrieved from "https://en.wikipedia.org/w/index.php?title=Commander%27s\_Emergency\_Response\_Program&oldid=1122345342"

このページの最終更新日時は 2022年11月17日 (月) 03:10(UTC) です。

テキストはクリエイティブ・コモンズ 表示-継承ライセンス 3.0 の下で利用可能です。追加の条件が適用される場合があります。このサイトを使用することにより、利用規約とプライバシーポリシーに同意したことになります。ウィキペディア®は非営利団体であるウィキメディア財団の登録商標です。